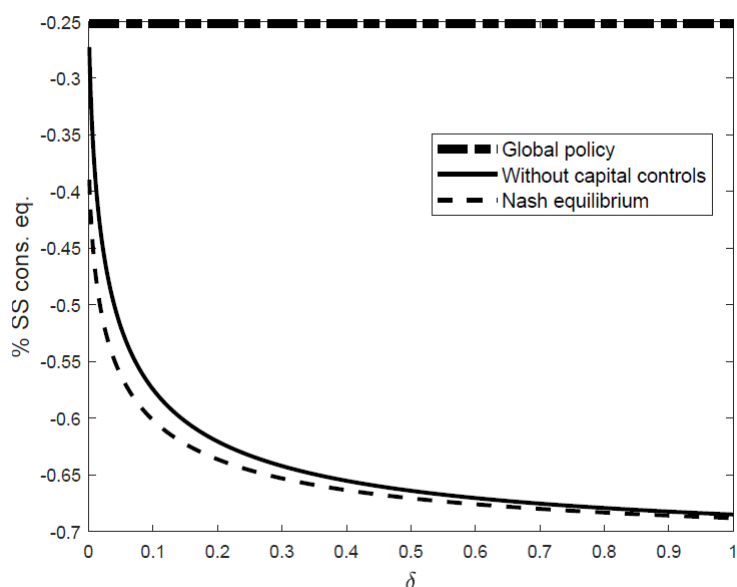


北野重人

国際経済の分野で近年関心が高まっている政策として、資本規制やマクロプルーデンス政策がある。これは、グローバル化した世界経済の下では、金融政策等の既存の政策だけでは十分な対応が行えないということが、特に世界金融危機後、IMF を含めて一般的に認識されるようになってきたためである。こうしたことを背景に、本研究は、資本規制やマクロプルーデンス政策の理論研究のフロンティアを拡大する分析を行っている。

特に本年度は、これまで構築してきた小国開放モデルにおける政策の分析について、2国モデルに発展させる作業を行った。資本規制政策に関しては、Jeanne et al. (2012)等 が新たな国際ルールの必要性を指摘するなど、今後さらに研究されるべき重要なテーマであるにもかかわらず、他国への影響を考慮した分析は限られている。2国モデルに発展させることによって、両国の政策の相互作用の影響を分析することが可能となる。

そこで資本市場が不完全(incomplete)なことを特徴とする2国モデルを構築した。その上で、2国が行う資本規制政策について、どういった厚生水準がもたらされるかを検討した。各国が個別に自国の厚生水準を最大化する政策を行った場合(open loop Nash game equilibrium)と、2国が協調して両国を合わせた厚生水準を最大化する政策を行った場合(Ramsey policy)との比較を行った。図は、横軸に資本市場の非完全性を表すパラメータ、縦軸に各政策で実現される(世界全体の)厚生水準を示したものである。図中、“Nash equilibrium”と表記しているものが前者の厚生水準、“Global policy”と表記しているものが後者である。主な分析の結果として、資本市場が不完全であるほど、協調政策を行った場合とそうでない場合の差が大きくなることを明らかにした。



Kitano, S. & Takaku, K. (2022) Financial market incompleteness and international cooperation on capital controls. *International Journal of Economic Theory*, 1– 19. <https://doi.org/10.1111/ijet.12331>